

サブゼミ 表面—表面構造の新しい観測法—

表面サブゼミは7月20, 21日の2日間, 木島平にて行われた。

参加者は30名程で, 手ごろな人数であった。

しかし, 表面を専門とする研究室からの参加が少なく, 来年は各研究室が多数参加願いたい。

内容は「新しい表面構造解析法」をテーマとして, 以下の通り。

講師 酒井 明 (東大・物性研)

「新しい表面構造解析法: 表面を撫でる実験法」

— STMとヘリウム原子線回折法—

発表者 米田 忠弘 (京大・理)

「電子エネルギー損失・分光による $N_2/Ni(110)$ の研究」

宮本 良之 (阪大・基礎工)

「GaAs(110)表面の内殻励起子による共鳴光電子放出」

酒井氏の講演はとてもわかりやすく, 興味深いものであり, とくにSTMについては表面以外の方も興味を持っておられる方が多いのには驚かされた。

今回, 「実空間を見る」観測手段に重点を置き, STM, He原子線回折, ELS等, 取り上げ, 従来の観測手段(LEED等)との比較検討も行われた。全体的に見て, 充実した内容ではなかったかと思う。

また, 来年の世話人も吉森研が行うことになってしまった。ジャンケンの弱さが, 悔まれる。次々回はぜひ他校に世話人を引受けて頂きたい。

最後に, 御協力頂いた方々に深く感謝したい。

(世話人 阪大・基礎工 渡辺佳英)

サブゼミ 物性基礎論II — Beyond Simple Chaos

発表者及び発表題目

23日 佐野 雅己 (東北大・通研)

1986年度物性若手夏の学校の報告

「散逸力学系のカオス」

池上高志（東大・理）

「セル・オートマトンの統計物理」

24日 武本真二（東大・教養）

「ハミルトン系のカオス」

篠本 滋（京大・基研）

「神経ネットワークの数理モデル」

今回は、4人の発表者の方々に、カオスについての初歩的な事柄から最近のhotな話題まで、広範囲にわたって、詳細に初心者にもわかるように解説していただきました。両日とも、参加者数は20人程度でした。参加者と発表者との議論が、あまり活発でなかったのがおしまれます。

最後に、お忙しいところを講演を引き受けてくださいました発表者の方々にお礼を申し上げます。

（世話人 茨城大・理 寺門弘訓）

サブゼミ 低 温—低温における諸研究

今回は、森先生に超伝導薄膜全般に関する講義をしていただき、発表者には、早稲田大学の清水さんと、鹿児島大学の斉藤さんに、超伝導薄膜に関する研究を具体的に発表していただいた。講師、発表者及び題目は次のとおりである。

23日 森 夏 樹（小山高専・電気）

「超伝導薄膜」前半

清水 照 久（早稲田大・理工）

「JTO 薄膜の超伝導」

24日 森 夏 樹（小山高専・電気）

「超伝導薄膜」後半

斉藤 俊 一（鹿児島大・工）

「準安定超伝導薄膜の生成及びその特性」